

別紙

第12回みんなで創る自治基本条例市民会議

(平成17年10月21日)

## 各班の意見内容

## ホワイトボード板書

## まちづくりの主体の役割と責務

## 市民の役割

- ・ まちづくりに参画（企画、実行、評価）
- ・ まちづくりに協力
- ・ 自分のまちを自分で良くする
- ・ 住みやすいまちづくり意識を持ち、まちづくりの主体となる
- ・ 自らの発言と行動に責任を持つ
- ・ 市民は行政と議会の監視

## 行政の責務

- ・ 自らの発言と行動に責任を持つ（説明責任を含む）
- ・ 市民の声を組織として受けとめ  
市政に反映させる
- ・ 効率的、公平な（大・小問わず）  
行政運営
- ・ 市民に開かれた行政

## 議会の責務

- ・ 自らの発言と行動に責任を持つ
- ・ 市民の声を公平に受けとめ  
市政に反映させる
- ・ 市政を監視し、市民に知らせる
- ・ 議員は市の発展と未来の展望を！
- ・ 市民に開かれた議会

## 発表内容

- ・ 「責務」という言葉にはやや強制的な強いニュアンスがあり、市民に「責務」という言葉を使うのはあまり好ましいことではないと考え、市民は「役割」、行政と議会は「責務」とした。

## 「市民の役割」

- ・ まず一つは、「まちづくりに参加」をするということである。その参加とは、企画・実行・評価の全てにであり、実行だけではなく、企画段階から評価まで参加するということである。今のところ評価にはほとんど参加していないが、ここまでやって「参画」である。
- ・ 「まちづくりに協力」については、「企画」に協力、「実行」に協力、「評価」に協力、あるいは全部に協力というように、どこの段階でも入っていけるような体制をつくるべきである。「参画」とは全てに参加してのものであるが、全てに参加することができない人たちのために、どの段階でも「協力」をして入っていけるようにしていこう、ということである。

- ・ 一番の基本は、「自分のまちを自分で良くする」、「住みやすいまちづくり意識を持ち、まちづくりの主体となる」ということであり、これがポイントである。
- ・ 「自らの発言と行動に責任を持つ」ことが大切である。やたら文句だけ言って言いつばなしの人など、個人エゴについては排除していくべきである。要はみんなのことを考えて、責任を持った行動と発言をするということである。
- ・ 「市民は行政と議会の監視」をすることが大事であり、無責任、無関心ではダメである。行政に委託し、また議員を送り出しているわけであり、その行政と議会が私たちの委託を受けて、そのとおりにきちんと働いてくれているかどうか、しっかりと見つめていなくてはならない。

### 「行政の責務」

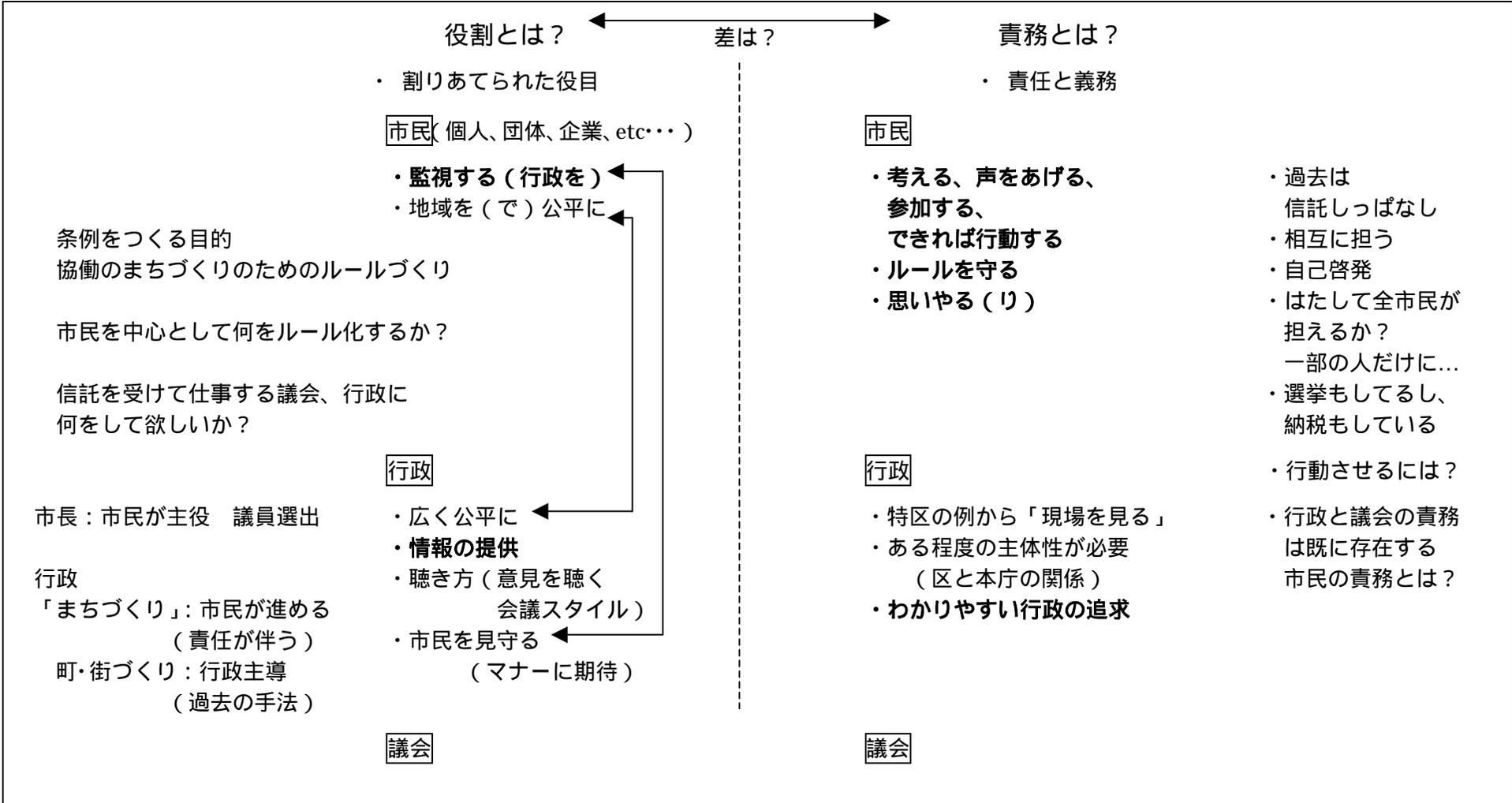
- ・ 「自らの発言と行動に責任を持つ」ことである。この「責任」の中には「説明責任」も含む。問われたら必ずきちんと分かりやすいように説明をすることが大事である。ただ「ダメ」だというのではなく、なぜ「ダメ」なのかをきちんと説明する責任を持つべきである。あるいはある施策をするときには、なぜこの施策をしなければならないのか、これをするによってどのような効果があるのか、ということもきちんと説明した上でやるべきである。
- ・ 「市民の声を組織として受け止め、市政に反映させる」ことである。個人で聞いたり、あるいは担当課の答えを伝えるだけではなく、組織としての受け止めをしてほしい。一担当課の回答が(ケースバイケースで)正しいのかどうか、組織内のいろいろな人の目を通して、確かに行政の責任として、市長の対応としてこれで良いというものにするべきである。
- ・ 「効率的、公平な行政運営」について、公平というのは大きい小さいを問わないということであり、来る人によって差別をつけてはならないということである。
- ・ 「公平」と「平等」は違うと考えており、「平等」とはある一定のレベルにみんな合わせようとするものである。良くも悪くも目をつむってみんなこの線に合わせましょうというのが「平等」であるが、このように扱われては困るので、あくまで「公平」な扱いとした。
- ・ 「市民に開かれた行政」が大切である。今、情報公開制度でいろいろな情報を市民に知らせる仕組みになっているが、「見せてあげるから来てください」という形になっている。そうではなく、「今、行政はこうなっている」ということを市民に知らしめる義務、責務がある。知らしめる方法としては、「ここに置いてあるから見てください」、「ホームページに載っているから見てください」ということではなく、もっと開かれた行政になるように工夫をしてほしい。

### 「議会の責務」

- ・ 「自らの発言と行動に責任を持つ」ことである。「議会」イコール「議員」でもあり、自分勝手な、あるいは一特定利害関係者の代弁をしてはいけないということにも当然なる。
- ・ これと対するものとして、「市民の声を公平に受け止め、市政に反映させる」ということである。後援者の声は聞くが、そうではない人の声は聞かないなど、そのようなことが往々にしてあり、それではいけないのではないか。
- ・ 「効率的、公平な行政運営を監視し、市民に知らせる」ことである。議会がチェックしたことを市民に知らせる責務がある。今現在、それを市民に知らせているかということ、必ずしもそうではない。
- ・ 議員は「市の発展と未来の展望」を考えるべきである。利害関係者のために動くのではなく、上越市が今後どのような方向を向いていったらよいか、ということを一生涯懸命考えてほしい。これはやはり議員の役割、議会の役割だと思う。誰が上越市の将来に責任を持つかと考えると、最終的にはやはり議会ではないか。
- ・ 「市民に開かれた議会」というのは、先ほど申し上げたとおり、市民の知らないところで決めるのではなくて、決定の過程やそこでの議論の内容をきちんと市民に報告をするということであり、それは議会の責務である。

2班

ホワイトボード板書



#### 発表内容

- ・ 2班は議論がかなりまとまってきているが、他の班の意見を参考にしながら、もう一度内容を深めようということで、話し合いを続けてみた。
- ・ 「役割」と「責務」の意味の違いをどう捉えるか、という話になり、「責務」というのは少し責任が重いというような感じであるが、あまりこだわらずに、義務感が少しつくかなというくらいで考えていったらどうか、という結論になった。

#### 「市民」について

- ・ 市民の役割をもっと再認識しなければならない。
- ・ 意識改革がまだまだできていないのではないかな。
- ・ 市民の監視の目というのがすごく大切である。行政・議会に信託しているわけであるが、市民による監視をし続けるということが市民の役割として大切なことではないかな。
- ・ 市民が主体だといえども、ルール化していかないと分からないものになってしまうので、ルールみたいなものを作っていくべきである。
- ・ ルールは市民が使いやすく、守りやすく、分かりやすいものでなければならない。
- ・ 自分のできる範囲で参画するということが大切ではないかな。
- ・ やる気のない人たちをどう仕向けていくかが大切である。やる気のある人たちに合わせるのと、やる気のない人たちに合わせるのでは、条例の作り方もかなり違ってきて難しい面があるのではないかな。
- ・ 特区の例が話として出たが、行政はもっと現場を見て仕事を進めてほしい、という要望を含めたものがあった。
- ・ 行政は「広く・浅く」は得意だが、カバーできない部分がたくさんある。それを市民の力で補っていけば良い社会になっていくのではないかな。
- ・ 情報公開について、まだまだ分かりやすい、タイムリーな情報公開ができていないので、これも条例の中で考えていく重要なポイントではないかな。

- ・ 前回挙げた意見から、2班としてまとめてみると、まず市民のところでは「考える、声をあげる、参加する、できれば行動する」ということであり、この「できれば」については少しもめたが、しかしこのような硬くない言葉が入った条例があってもよいのではないかな、ということで付け加えた。
- ・ それから「ルールを守る」、「お互いに思いやる」というのが大切であり、まだまだ確定ではないが、この三本を柱にして市民の役割と責務をもう少し深めていきたいと結論付けた。

#### 「行政」について

- ・ まず分かりやすい行政を追求すること
- ・ 情報提供と公開が一番大事ではないかな。

ここで時間切れになった。次回は行政と市議会をもう少しさせていたきたい。

3班

ポストイット内容

市民

参加する	参画する	協力する	市民の義務と権利	協働の担い手	自己責任	しっかり稼ぐ
意見を述べる		実践する			自己負担	
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活動に参加する</li> <li>審議会等に参加する</li> </ul>	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画・立案に参画する</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>振興会</li> <li>まちづくり</li> <li>協議会</li> <li>NPO (本来の...)</li> <li>町内会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ちゃんと税金を(適正な)払う</li> <li>他人に迷惑を掛けない</li> </ul>	

行政

市民の受け皿	経営責任	情報公開	市民の生命、財産を守る	縦割行政の弊害
市民と一体となってまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期的視野で行政運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に開示</li> <li>情報の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心</li> <li>防災</li> <li>防犯</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家が必要</li> </ul>
「協働」の意識を持つ				
平等のサービス				
行政はすべての人に平等なサービスを				

議会

市民の代表者	行政の監視	政策能力
市民と行政の橋渡し	審査能力	提案力
<ul style="list-style-type: none"> <li>要望・意見の集約</li> <li>動く、視る、聞く、考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民に代わって行政の監視</li> <li>計画されたことの進捗と結果、成果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立案・提言(積極的に)</li> </ul>

### 発表内容

- ・ 3班では前回、まちづくりの主体の役割について、ポストイットに書いて具体的に考えていった。今回は前回にポストイットでまとめたものの中から、まとめられるものはまとめて、具体例を挙げていくという形で「責務」についても考えていけたらいいということで考えていった。今回も前回同様に、「市民」と「行政」と「議会」の3つについて考えた。

### 市民について

- ・ 「参加する、意見を述べる」については、地域の活動に参加したり、町内会やサークル、イベントなどに参加して意見を述べるのが大事である。
- ・ 「参画する」については、「参画」は「参加」よりもう一段階踏み込んだ内容で、「参加」がただ祭りなどの行事に参加するということであれば、「参画」というのは祭りの企画・立案の段階から参加して、その祭りを作り上げていく、という意味で捉えた。
- ・ 「参画」していった人が協働の担い手になっていくということで、振興会やまちづくり協議会、NPOの主体になっていくというふうに考えた。
- ・ 「自己責任」、「自己負担」については、市民には納税の義務があるので、しっかり税金を納めていくということも大事である。

### 行政について

- ・ 「市民の受け皿」になる、「市民と一体となってまちづくり」をしていく、「協働の意識を持つ」、「平等のサービス」、「行政はすべての人に平等なサービスを」という意見が出た。なかなか今までは行政職員は市民と協働することはできていなかったが、これからはやっていく必要がある。
- ・ 「経営責任」については、長期的視野に立って市の行政計画を考え、行政に経営の考え方を取り入れていくべきである。

- ・ 「情報公開」については、情報を求められてから開示するのではなく、市のほうから積極的に開示していき、市民と行政で情報の共有をしていく必要がある。
- ・ 「市民の生命、財産を守る」ということについては、まず一番大事なのが安全・安心なまちをつくっていくことである。それから防災・防犯について、最近ではいろいろな自然災害が起きており、市民の皆さんに危機意識を持っていただくような、例えば市でしっかり勉強してハザードマップを作ったり、防災についていろいろ情報提供していくことが必要なのではないかと。
- ・ 「縦割り行政の弊害」については、行政職員は短いサイクルで他の部署に異動してうため、スペシャリストがなかなか育たないので、もっと専門的に長い期間同じ部署にいるスペシャリストを養成していくことも大事なのではないかと。
- ・ その逆として、旧町村では、総合職のようにいろいろな部署を回ったジェネラリストの職員が多く、また旧町村では住民の皆さんと顔見知りであることもあり、例えば他の部署の担当事務のことを聞かれても、ただちにその担当の席まで案内するなど、臨機応変な対応がされており、このようなジェネラリストの養成も大事ではある。

### 議会について

- ・ 議員であれば「市民の代弁者」として、「市民と行政の橋渡し」になることが大切である。
- ・ 市民の「要望・意見を集約」することが必要である。
- ・ 議員は、「動いて、視て、聞いて、考えて」ほしい。話す議員は多いが、もっと聞く議員、考える議員もいてほしい。
- ・ 市民に代わって「行政を監視」してほしい。
- ・ もっと「政策能力」を身につけて、いろいろ勉強してほしい。

## ホワイトボード板書

## 役割のまとめ

## 市民

- ・ 自主的、積極的に自覚をもってまちづくりに参画すること  
 どのような目的の？  
 漠然とした言葉  
 範囲は？  
 小さなコミュニティ  
 自分の好きな分野
- ・ 自分の住む地域を知る、愛する、守ること
- ・ 市民同士の協力、尊重しあうこと

## 行政

- ・ 財源（税金など）の確保                      行政の権能に基づくもの
- ・ リーダーの人材育成
- ・ 情報の提供

## 市議会（地方自治法で規定されている部分もある）

- ・ 市民の声、意思をまちづくりに反映させること  
 特に町内会という狭い範囲ではなく、全市的な視点が必要
- ・ 行政行為のチェック

## 発表内容

- ・ 4班は、役割をルール化するにあたって、まず上越市民としてどのようなことを目指していきたいか、前回の内容を踏まえてながら、さらに具体的な内容を話し合った。

## 市民について

- ・ 自主的に興味のあることから積極的に自覚を持って参画する。企画・実行・評価に関わることによって、参加したという意識が出てくると思うので、できるだけ多くの人に関わってもらえるようにすることが大切である。
- ・ 住んでいて良かったと思えるまちづくりを第一に考え、まず自分の身近なまちづくりから考えていき、そのあとで全体を考えるという事で良いのではないか。
- ・ まちづくりの基本は多くの小さなコミュニティである、と言われるように、まちづくりのイメージを考えると意見が出てくるのではないか。
- ・ 企業との関係については、企業との協力も大切である。企業なりに積極性を持って、まちづくりに参加してもらいたい。

- ・ お互いに声を掛け合って誘い合うことによって、情報の交換及び交流ができるのではないか。また、世代間の交流も必要である。

## 行政について

- ・ まず第一に財源の確保をしてほしい。
- ・ 情報の提供、機会の提供などは後方支援のひとつである。
- ・ 人材育成、リーダー育成をしてほしい。資金面だけではなく、専門的分野での手助けや情報の提供をしてほしい。

## 市議会について

- ・ 地方自治法で規定されている部分もあるので、細かく決められないのではないかという意見があった。
- ・ 市民の希望ということで、まず地域をよく知ってもらえることが大切である。
- ・ 市民の声・意思をまちづくりに反映させる。
- ・ 行政行為のチェックをすること。

責務については、それぞれが役割を全うする、ということであると思われるが、時間がなくて詳しいことは次回に議論させてほしい。

## 5 班

### 5 班 ホワイトボード板書

#### 市民

- ・ 行政、市議会に対するチェック
- ・ 個々の市民ニーズをとりまとめる仕組みが必要 行政へ
- ・ 市民が考え行動する

#### 行政

- ・ 市民に身近な行政に
- ・ 説明責任
- ・ 市民の意見をよく聞く

#### 議会

- ・ 市民の立場に立った議会
- ・ 市民に身近な議会
- ・ 市民の意見をよく聞く

前回の内容もあわせて参照

#### 発表内容

- ・ 5 班は、今回はポストイットで市民、市議会、行政について分けて整理した。あらためて見てもなかなか良くまとまっているということで意見が一致したので、今回はこれに不足しているところがないかどうかということを中心に話し合いを進めた。

#### 今回新たに出てきたもの

##### 市民について

- ・ 行政、市議会のチェックということがある。
- ・ 行政に個々に意見を述べてもなかなか通じないところがあり、それをまとめる仕組みが必要である。市民が作る場合もあるであろうし、行政が用意する場合もあるかもしれないが、そういうものが必要であろう。

##### 行政について

- ・ 市民に身近な行政になってほしい。
- ・ 当然であるが、市民の意見をよく聞くことが必要である。行政には市民の意見を集約するシステムがたくさんあるが、それらを使える人と使えない人がいる。なんでもかんでも個人で言えばいいというものでもないわけであり、ある程度意見をまとめるということを行政として考えていってほしい。

##### 議会について

- ・ 当然であるが、市民の立場に立ってほしい。
- ・ もう少し市内をよく見てほしい。意見を待っているのではなく、自分たちでこういうことが必要ではないか、ということ提案するような議員になっていただきたい。

- ・ 余談であるが、赤い羽根募金の話が出た。赤い羽根募金は募金する金額は自由であるが、地区によって要請してくる金額に開きがある。安いところは 400 円だが高いところは 1,300 円であった。この辺は合併したのにどうなっているのか、という話が出た。

6班

ホワイトボード板書

役割 ↔ 責務

表裏一体

市民

- ・まちづくりに参加・参画し、実践する
- ・情報を取捨選択できるような能力（情報リテラシー）を養う
- ・偏りのない議員の選出

行政

- ・本庁だけでなく、区にも権限を
- ・地域の細部まで配慮を
- ・外部からのチェック機能を
- ・情報提供・発信の方法を考え、工夫する
- ・市民のニーズにあった情報公開

議会

- ・行政の監視
- ・市民全員の代表という意識が肝要
- ・市民の安心・安全を確保する（喜んでもらえるような施策を）

その他

- ・地域協議会

市民、行政、議会 ... 自分から進んで地域をよくしていこうという気持ち

#### 発表内容

- ・ 6班は今日は出席率が大変悪かった(6人)。この会が魅力のある会であればもっと万難を排しても出席するのではないか。我々がここで議論した内容が本当に上へ上がっていくのか、このあたりが少し疑問視されたりした。
- ・ 「役割」と「責務」は表裏一体であるということで、特にその言葉にこだわらないで考えていった。

#### 市民について

- ・ 市民はまちづくりに参加、参画して実践していく。
- ・ 情報公開といってもたくさん情報があふれすぎている。ホームページを開いて見るとしても、なかなか容易ではない。市民のほうの責務であるが、情報を取捨選択する力を身につけなければならない。

#### 行政について

- ・ 情報を発信する行政のほうでは、情報の提供、発信の方法を考えて、市民のニーズに合った情報の出し方をしなければならない。市民と行政お互いのちょうどマッチしたやり方で、情報公開の効果が表れるようなやり方を工夫していかなければならない。

#### 議会について

- ・ 行政のチェックをすること。
- ・ 市民全体の代表という意識が肝要である。自分を選んだ母体だけのところを考えて、他のことを全然見向きもしないというような議員では困る。
- ・ 市民も偏りのない議員の選出をする必要があるが、議員もやはり市民全体を考えるという観点が必要である。

- ・ 市民も行政も議会も監視されるからやるというのではなく、自分から進んで地域全体をそれぞれ三者三様にしっかり考えていくことが必要ではないか。
- ・ 行政のほうでは、どちらかというと全体を考えているが、地域の細かい部分まで配慮が足りないのではないか。地域協議会のこともあるが、地域、区にももう少し権限を持たせてはどうか。
- ・ 市民の安心・安全が一番大事なことであり、このことが災害の多い昨今に大変大事なことである。その政策等もしっかりとやってもらいたい。